

1 校長あいさつ(鎌田正幸校長)

2 任命状交付・自己紹介

A 委員(裾野市社会福祉協議会)

B 委員(マチテラス製作所)

C 委員(PTA 会長)

D 委員(元清水西高等学校校長)

E 委員(静岡県地域づくりアドバイザー)

学校側参加者: 鎌田正幸校長、大石友美副校長、稲 有子教頭、菅尾 進事務長、塩谷陽一教務課長

3 静岡県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則・要綱について(大石友美副校長)

4 静岡県立裾野高等学校における学校運営協議会の設置等に関する要綱について(大石友美副校長)

5 会長・副会長の選出

会 長 A 委員

副会長 B 委員

6 議事: 議長 A 委員

(1) 令和8年度学校経営計画について

校長より

・令和7年度末の人事異動について

「2学級減に伴い、教員の数は4減である。」

・ウーブン・シティアンバサダーについて

「4月23日(木)に生徒4名が現地に赴く。」

・産業能率大学との高大連携に関する協定書締結について

「大学生に授業に入らせていただく。大学教授にも教員研修をしていただく。教員の世界にとどまらない、最先端の知見をいただく。」

・校長通信の発行について

「昨年は194号発行した。今年度も毎授業日の発行を目指す。4月6日から現在11号発行している。生徒にはCラーニングを通じて配信している。」

・新聞記事について

「駅前でフリーマーケットを実施し、売り上げ全てを裾野市に寄付した。」

・娯楽施設における生徒の行動について

「本校の生徒2名が娯楽施設で、陣痛が始まった妊婦を救助した。その後、母子ともに健康であること。この件について御礼の連絡をいただいたが、対象生徒はいまだ名乗り出していない。嬉しい出来事である。」

・教職員組織に関する評価事項について

「本校はすべての尺度で際立つ強みを示す結果が出ており、前向きに挑戦できる雰囲気、安心して意見・発

言できる関係、一人で抱え込まない職場環境等があり、ほぼすべての項目で高い水準にあるという評価である。本校は非常にいい環境であると感じている。」

・北駿地域新構想高校について

「3月に県教委が市民の皆さんに説明した。令和13年4月の開校を目指す。普通科6学級、工業科1学級で、御殿場南高校の跡地に建設予定である。」

・スクールポリシーについて

「スクールポリシーの承認をいただくことが、この学校運営協議会の大きな柱である。学校運営計画を管理職が作ってただ出すのではなく、教職員自らが自分事として、目の前の生徒たちがどういう姿で卒業していくかを思い描いて、考えてもらった。Googleフォームで考えを募って、生成AIを使って整理し、校長が加筆修正しながら作成した。また、教職員の意見が多かったものを重点目標とした。意見が多いということはそこに課題を感じているということである。裾野高校に赴任して、裾野高校生が地域の皆さんに非常に良くしていただいて、市役所をはじめ地域の皆さんに学校に入っただいていて、ことを実感している。裾野市の企業、NPOの方々のご協力のおかげで、日々の教育活動を非常に充実させることが何よりの募集活動である。」

(2) 意見交換

Cさん

「企業ではよく、こういう目標を年度始めに打ち出すのが、途中で目標に対する中間見直しや、フォローを行う。学校ではそのような取り組みは行っているのか。」

校長

「生徒生活アンケートを年に3回し、評価していく。また、各授業アンケートは各学期ごとに行い、フィードバックする。なお、授業においてはGoogleクラスルームなどを使って日常的に振り返りを行っている。」

Dさん

「面接の数が多ければいいというものではないが、裾野高校はかなり手厚くやっていると思うので、面接の目標回数は3回とあるが、おそらく先生方は実際にはこれ以上に多くやっているのではないか？」

校長

「各学期に1回実施している。」

教務課長

「学期初めの4月、9月に8日間面接週間を設け、放課後に面接を実施している。3学期も含め、年に3回は面接をするようにしている。」

校長

「夏季休業中の面談を含め、他にも適宜、担任による面談を行っている。」

Sさん

「情報発信についての目標や目安は？」

校長

「今年度は情報発信についての数値目標は特に挙げていないが、HPを活用して、ほぼ週1回更新している。今年度は学力の3要素を中心に経営目標を考えたため、広報的なものは入りづらかった。他にも部活動のInstagramが頻りに更新されていて、女子バスケット部や陸上部が更新してくれている。こういった情報発信は、自然になされていると実感している。」

Bさん

「しかし、地域の方はHPよりも新聞に掲載されるとよくわかる。自ら発信するよりもやはりメディアの影響は大きい。回覧板など紙媒体で見の方がいい。」

Dさん

「先生数が減っている中で、過重負担にならない程度の取り組みをしたらどうか。小中学校などはコミュニティだよりを回覧している。紙媒体で見るとお年寄りも見れる。新聞も読まない人もいるし、受験しようと思わないとなかなかHPも見ない。地域の商店街の人などは、回覧板に入ってくる紙媒体で見る。ネットではない紙媒体も大事ではないか。」

校長

「廊下に掲示してある部活動便りも地域の中学校に配って、掲示していただいた。」

Aさん

「この時代だからこそ紙。高齢者の方はやはり紙だと見てくれている。」

Eさん

「アドミッションポリシーに立ちかえってほしい。入試で受験生に問うているかどうか。地域のことを思うということが100%になっていけば、探究、課題解決が地域の未来であると考え、自分が真ん中にいて暮らしやすい地域を作っていくことができる。子どもたちの対話力、リーダーシップを發揮できる子が一人もいないグループは時間が余ってしまう。一人一人が話さざるを得ないトークフォークダンスは結果的に全員がしゃべることができる。こうした取組がやはり必要だと思う。求める生徒像の具体化が明記されている以上、生徒も先生方も常に意識してほしいと思う。ここがなければ、やはりグラデュエーションポリシーを実現できないと思う。」

校長

「今年の入試から面接の方法を変え、一人の面接時間を長くした。一人に費やす時間を長くした方が見えるものがあるし、質問する回数も当然増える。「地域貢献枠」に今年度は一人受験してくれたが、この「地域貢献枠」は良いと改めて感じた。Eさんがおっしゃるように、一人の生徒が雰囲気を変えらるというのは、往々にしてある。」

Dさん

「本校の非常勤の先生方にも聞いてみると、先生と生徒が和気あいあいとしていて、楽しく授業をしていると言っていた。進路実績が素晴らしいことにも驚いた。裾野の町を歩いていてもいい雰囲気になってきた。一人一人に目が行き届き、先生と生徒がコミュニケーションを取れるようになってきたのだと思う。クラス減というのは非常に苦しいと思う。クラス減になると教員の数も減る。そうすると、学校の組織と部活動が大変なことになる。分掌や部活の改編、部活動を維持していくこと、先生方の負担を減らすこと、生徒を支える教職員の心身の健康、そして学校の魅力化を進めながらスリム化をして、分掌、部活動を改編していく。その苦労があるのではないか。」

校長

「令和10年度はすべての学年が2学級となるが、それまでは教員3人減っていくことが予想される。サッカー部は既に募集を停止している。文化部については総合文化部とし、何人かの教員で、無理なく見れるようにしている。教員数が減ると大変だと日々実感している。先生方は目の前の生徒たちのために本当に頑張ってくださっているが、いくら優秀な教員で、やる気のある方ばかりであっても、やはり人数が減っていくと、いずれ、顕在化するのではないかという危惧はある。先生方が疲弊しないように、管理職としては考えなくてはいけない。」

Dさん

「せっかく、コミュニティスクールなので、サポートできる地域の方が学校の中に入れるようになると、先生方も楽になるのではないかと思う。小学校ではそれが当たり前機能している。学校が縮小していく中で、地域の方が学校に入ってくれるというのを、高校でもやれると良い。ただ、高校は地域の人からしたら、どことなく敷居が高い。小中学校だと、「おらが小学校、おらが中学校」で、中に入れる。図書館など

地域に開放し、地域の方が常駐できるようにして、ディレクターのような方が週に2回くらい来られるようにしてはどうか。きちんと報酬も払って、いろいろな責任もあると思うので、そのような仕組みができればいい。せっかくコミュニティスクールなのでうまく機能して、先生方の助けになればいいと思う。」

校長

「ディレクターがいなければ担当者の負担が増える。先生方の健康を考えねばならない者としては、地域を大事にしようというのであれば、ディレクターの運営が必要であることを、県の方にも伝えていこうと思う。」

Dさん

「後援会にお願いするのも一つの方法ではないか。何か良い方法はないかと思う。」

Aさん

「先生方もストレスが出てきているのではないかと思う。人それぞれストレスの感じ方も違うと思うが、ストレスチェックのようなものはやっているのかどうか。」

校長

「実施している。県教委が実施している。」

Aさん

「昨年の4月からの校長通信は、毎日は見えていないが、かなりの量である。本当に感心している。」

Dさんより

「入試の結果を見てびっくりした。前年度は多くの学校が定員を満たしている。新構想高校が新聞でも発表されているが、必ずしも魅力ある学校に映っていないのではないか。北駿地域の活力を削ぐのではないかと危惧している。裾野市の中学生の数は横ばいで減らない。なぜ人口が減らない地域の学校を定員を減らして、新構想高校を立ち上げるのか。この裾野市がさらに空洞化することにつながりかねない。本当に御殿場、裾野、小山の地域のためになるのかと思う。ぜひ、裾野高校は残さないといけな。」

Eさん

「残念ながら高校がなくなることの影響を多くの方は知らない。全国の事例を見ると、高校がなくなった途端に子育て世代が家を建てるという選択肢はなくなる。ここからが大切だと思うが、苦しいのは本気で維持に向かって動いている人がいるのかということである。」

Dさん

「なくなってはじめてわかる。昼間の人口、裾野市にとどまる人口が減り、経済的損失が出ないとわからない。なくしたらもう元には戻らない。」

校長

「昨年赴任してから、裾野高校の生徒は市役所をはじめ、地域の方によくしていただいているのは身に染みてわかった。」

7 諸連絡（大石友美副校長）

- ・今後の学校運営協議会の予定について